

# 『ナーチャミー』って なんですか？



●Answer  
きゅうようじ ほんがんじん  
沖繩市・球陽寺(コザ本願寺)  
ぜんしゅうしやく きえ りゅうしやう  
前住職 帰依 龍照



昨年(こぞ)の祖父(おじいちゃん)の葬式(お葬式)は、台風(たいふう)のとき(とき)でした(でした)。

た。暴風雨(たけなみ)の中(なか)、お坊さん(お坊さん)が「皆さん(みなさん)は風邪(かぜ)をひきま(ひきま)すから、私が代表(だいひょう)でお墓(おぼとけ)の外(の外)に出て(で)きませ(せ)ねえ」と納骨(おぼとけ)の後(のち)、傘(かさ)もさ(さ)さず、独(ひと)りでお墓(おぼとけ)の門(かど)から出入(でいり)りをされて(されて)いました(いました)。それ(それ)を見(み)た親戚(おまが)の3人(さんにん)のユタ(ユタ)のおばあちゃん(おばあちゃん)たちは、「わか(わか)とく(とく)やっ(やっ)さ(さ)ー！」と大絶賛(だいぜつさん)。あれ(あれ)は一体(いったい)、何(なに)をされて(されて)いた(いた)ので(ので)しょう(しょう)か？(か？) (豊見城市(とよみがし)・Aさん(アさん)・40代(40だい))



Aさんのご質問(ごしつもん)から想像(さくご)する(する)に、沖縄(沖縄)の伝統(でんどう)的(てき)な(な)しきたり(しきたり)の一つ(ひとつ)である(である)『ナーチャミー』(ナーチャミー)のこと(こと)をお尋(おたず)ね(ね)されて(されて)いる(いる)のではない(のではない)かと拝察(はいさつ)いたし(いた)します(します)。

『ナーチャミー』は、『次の日の確認』

『ナーチャミー』の直訳(ちやくやく)は、『翌日見』(あしたみ)と言い(い)伝(でん)え(え)られて(られて)います(います)。これ(これ)を拡大(くわくだい)解釈(かいさく)すると、『次の日の確認』(あしたのひのたしりん)と言(い)い換(か)える(える)こと(こと)が(が)でき(でき)ます(ます)。地域(ちいき)・家庭(けいたい)によ(よ)って(って)は、同義(どうぎ)から、『ナーチャ』(ナーチャ)が『アチャー』(アチャー)、『明日』(あした)が『アチャーミー』(アチャーミー)へと変換(へんかん)され(され)、『アチャーミー』(アチャーミー)の『明日見』(あしたみ)と『おっしゃる方々』(おっしゃるかた々々)も多(お)くお(お)られ(られ)ます(ます)。

沖縄(沖縄)では(では)地域(ちいき)・家庭(けいたい)によ(よ)り、大切(たいせつ)な儀式(ぎしき)・法要(ほふ)の翌日(あした)にお礼参り(れいさんり)や後片づけ(ごのちいれ)を兼ね(かね)て、ごく少数(ごくすうすう)の方々(かた々々)で再度(また)、『ティーウサー』(ティーウサー)〔合掌(がっしょう)・ウヌフェー』(ウヌフェー)〔礼拝(らいはい)へら

いはい)を行(い)う(う)しきたり(しきたり)が残(のこ)って(って)います(います)。

『次の日の確認』(あしたのひのたしりん)の意味(いみ)は多種多様(たんなんた)で、お礼参り(れいさんり)や後片づけ(ごのちいれ)以外(いそか)に、「やり残(やりに)した(した)こと(こと)はない(ない)か？」、「ウグワンブスク(ウグワンブスク)〔御願(ごがん)不足(ふそく)〕にな(な)って(って)いない(ない)か？」など(など)、前日(まじつ)に行(い)った(った)儀式(ぎしき)・法要(ほふ)の総仕上げ(そうじあげ)も兼ね(かね)て(て)いる(いる)こと(こと)です(です)。

『ナーチャミー』(ナーチャミー)は、お葬式(おそうじしき)を終(お)え(え)、お墓(おぼとけ)に出向(い)き、大切(たいせつ)なご遺骨(ごいぼね)の入(い)った(った)フニシンガーミ(フニシンガーミ)〔骨壺(こつぼ)〕をウんチケー(ウんチケー)〔案内(あんない)する(する)、納骨(おぼとけ)の翌日(あした)に行(い)われる(われる)のが(のが)一般(いぱん)的(てき)ですが(ですが)、ウスコー』(ウスコー)〔ご法事(ほふし)〕の翌日(あした)の『アシゲイシヌウグワン』(アシゲイシヌウグワン)〔足返(あしげ)しの御願(ごがん)〕や、四十九日(しじゅうくにち)の翌日(あした)の『墓(ぼ)のトウドウミ』(墓(ぼ)のトウドウミ)〔墓(ぼ)の戸止め(とどめ)〕なども、『ナーチャミー』(ナーチャミー)の一種(いっしゆ)だ(だ)といわ(い)れて(れて)います(います)。

## 現代版『ナーチャミー』

火葬(くわさう)が普及(くわいはく)して(して)い(い)な(な)かった(かった)時代(じだい)、沖縄(沖縄)では(では)、お亡(おな)くなり(なり)にな(な)ら(ら)れた(れた)故人(こじん)さま(さま)がお墓(おぼとけ)の中(なか)で(で)よみ(よみ)が(が)え(え)った(った)〔黄泉(よみ)〔よみ〕が(が)え(え)った(った)〕、また(また)は、よみ(よみ)が(が)え(え)って(って)いた(いた)という(いう)エピソード(エピソード)を多(お)く耳(みみ)にし(し)ます(ます)。とある(ある)地域(ちいき)では(では)、お墓(おぼとけ)に納棺(おぼとけ)して(して)閉め(し)めた(めた)はず(はず)の棺(こは)のふた(ふた)が開(ひら)いて(いて)いた(いた)とか(とか)、とある(ある)地域(ちいき)では(では)、その開(ひら)いた(いた)棺(こは)の隣(とな)りの壁(かべ)に、血(ち)のにじんだ(にじんだ)深い(深い)爪(つめ)の跡(あと)が残(のこ)されて(て)いた(いた)とか(とか)。大雨(おおあめ)のとき(とき)、お墓(おぼとけ)のアマダイ(アマダイ)〔雨垂(あまだり)れ・庇(ひ)のこと(こと)〕で雨宿(あまやどり)

りをして(して)いたら(たら)、中(なか)から(から)、前日(まじつ)に納骨(おぼとけ)され(され)た(た)はず(はず)の故人(こじん)さま(さま)の声(こゑ)が聞(き)こえ(え)たと(たと)か(か)も……。

そのよう(よう)なエピソード(エピソード)から(から)も、『ナーチャミー』(ナーチャミー)は『次の日の故人さまの死亡確認』(あしたのひのこじんさまのしやうりつたしりん)の意味(いみ)もある(ある)のか(か)と拝察(はいさつ)いた(いた)します(します)。また、『死亡確認』(しやうりつたしりん)だけで(だけで)なく、『生きて(い)って(って)ほしい』(生きてほしい)〔迷(まよ)うこと(こと)なく成仏(なるぶつ)して(して)ほしい〕との遺族感情(いぞくかんじ)も含(こ)ま(ま)れて(れて)いる(いる)のではない(のではない)で(で)しょう(しょう)か(か)。

昨今(こぞ)は、『火葬(くわさう)の時代(じだい)に(に)な(な)れば(れば)、故人(こじん)は茶毘(ぢあび)〔だび〕に付(つ)いて(いて)生(い)き返(かえ)ること(こと)は(は)ない(ない)の(の)だから(だから)、『ナーチャミー』(ナーチャミー)を行(い)う(う)必要(ひつや)は(は)ない(ない)』(い)とのご意見(ごいけん)がある(ある)反面(はんめん)、前述(ぜんじゆ)した(した)『生(い)き返(かえ)って(って)ほしい』(生きてほしい)〔迷(まよ)うこと(こと)なく成仏(なるぶつ)して(して)ほしい〕との遺族感情(いぞくかんじ)を考慮(こうりゆ)し、翌日(あした)とまで(まで)は(は)い(い)か(か)なく(なく)とも(とも)、大切(たいせつ)な故人(こじん)さま(さま)の納骨(おぼとけ)に続(つ)いて(いて)当日(あした)に、一度(いちど)納骨(おぼとけ)した(した)お墓(おぼとけ)のウジョー(ウジョー)〔御門(ごもん)・入り口(いりぐち)〕から遺族(いぞく)、また(また)は代表(だいひょう)者(しや)が帰宅(きたく)する(する)そぶり(そぶり)を(を)して(して)出(い)門(もん)し(し)、また(また)ウジョー(ウジョー)に入(い)り直(なお)すこと(こと)によ(よ)って、簡易(かんい)的(てき)に翌日(あした)のお墓参り(おぼとけさんり)『ナーチャミー』(ナーチャミー)を表現(ひょうげん)する(する)しきたり(しきたり)も散見(さんけん)できる(できる)時代(じだい)を迎(むか)えて(て)います(います)。

いにしえ(いにしえ)が現代(げんたい)に伝(つ)わる(わる)『ナーチャミー』(ナーチャミー)は、遺族(いぞく)の深い悲(かな)しみ(しみ)の中(なか)にあ(あ)つ(つ)て、大切(たいせつ)な故人(こじん)さま(さま)への『成仏思想』(なるぶつしゆそう)と『蘇生思想』(そせいしゆそう)が複雑(くわんざん)に混(ま)ざり(ざり)合(あ)う(う)、尊(たう)い愛情(あいじやう)表現(ひょうげん)に他(た)なら(ら)ない(ない)沖縄(沖縄)のしきたり(しきたり)ではない(ない)かと学(まな)ばせて(せて)いた(いた)だ(だ)いて(いて)いま(いま)す(す)。

それ(それ)にしても(しても)Aさん(アさん)、な(な)ん(なん)という(いう)偶然(ぐうぜん)で(で)しょう(しょう)か(か)？(か) その台風(たいふう)の中(なか)、傘(かさ)も(も)さ(さ)さ(さ)ず、ずぶぬれ(ずぶぬれ)にな(な)って(って)『ナーチャミー』(ナーチャミー)を行(い)った(った)お坊さん(おぼうさん)って……(……) 実(じつ)は、私(わたし)です(す)。

## 納骨終ったのに

又、お墓に返るの？



絵 狂

